



実技講座「ちまきづくり」

じょうずにお米を笹で包めるかな？お母さん、やさしくおさえていてね。

年中行事の端午の節句(旧暦の5月5日)には、「ちまき」を食べる習慣が各地に伝えられています。福島県では、会津地方や中通り北部では「ひしまき」や「ささまき」と呼ばれる笹の葉で餅米を三角形に包んでゆでたり、蒸したりした「ちまき」が作られ、その他の地域では、一般的に「柏もち」が作られます。また中にはヨシまきや茅まき、笹だんごを作る地方もあります。ちまきに笹を用いるか否かは、その地域の植生に大きく影響されます。白河から峠を越えて会津に入ると山道の周囲には大きな笹の葉が散見されますが、白河の周辺では、大きな笹の葉を見つけるのはなかなか難しいです。

まほろんでは、6月14日(日)に、実技講座「家族でつくる福島の郷土食—ちまきづくり—」を開催しました。まほろん実習室は、一日中大勢の家族でにぎわいました。当日は、会津若松から講師を招いて会津地方で作られている「ひしまき」を家族でつくり、古くから地域で伝わる郷土食や食べものの保存についても学びました。もち米は地元白河市白坂産、笹は「チマキザサ」を猪苗代湖の南岸で採集し、干からびないように水につけておきました。途中、石臼で大豆をひいて、きな粉づくりも体験しました。

さあ、試食！まほろんで用意した「こづゆ」や「えご」などの伝統郷土食とともに、「いただきまーす！」家族みんなで食べるとほんとおいしいね。

体験学習

実技講座「鹿の角で釣り針づくり」

縄文時代に鹿の角から釣り針を作るときは、石のナイフや石の斧、砥石を用いて作ったと考えられています。実技講座でも石器を用いて当時の作業を再現したかったところですが、石器で鹿角を加工すると、数日かかるので、受講者の皆様には、今回は現代の道具を用いて釣り針を作っていました。

当日は、12名のお客様が釣り針づくりを体験しました。鹿角を5cmくらいに切断し、さらに半分に割りとる写真の①から③の工程は時間がかかるので、まほろんの職員が前もって加工しておきました。お客様は③から完成までを体験していただきました。

最初に縄文時代の釣り針づくりや魚釣りの様子を再現したビデオを見てもらい、当時の釣り針づくりをイメージしていただきました。そのあと実際の作業に移っていきました。③の「J」形の素材は、削りやすいように前日から水にひたしておきました。鉛筆で希望の釣り針のかたちを素材に描き、砥石を水にひたして余分な部分を削っていきます。釣り針の湾曲した部分は、棒ヤスリで丸く削り出します。

釣り針は釣り糸を結ぶ部分を「チモト」、釣り針の先のとげの用になった部分を「カエシ」と言いますが、この部分の細工が釣り針づくりではもっともむずかしい作業です。中学生以上のお客様は工夫して何とかクリアしていましたが、小さいお子さんは付き添いの方や職員に手伝ってもらっていました。釣り針のかたちができたとこで、角ばった部分を紙ヤスリで磨いて滑らかにして完成です。

体験した皆さんそれぞれに個性的な釣り針ができあがりました。なかには「あした、この釣り針で魚を釣るんだ」とはりきっている子供たちもいました。



夏のまほろん

夏のイベント

まほろんでは、今年も、たくさんの夏のイベントを用意して、みなさんのご来館をお待ちしています。

7月4日(土) カラムシから布を作ろう①

7月18日(土) カラムシから布を作ろう②

7月26日(日) まほろん夏祭り

8月8日(土) 親子で土偶・土面づくり

〃 古代の鉄作り①(砂鉄選別)

8月9日(日) 古代の鉄作り②(砂鉄選別)

8月29日(土) 親子で土偶・土面の野焼き

なかでも注目は、7月26日(日)の「まほろん夏まつり」です。この日は、夏休み特別企画として、古代3種競技「まほろんカップ」と古代染色体験「“すり染め”に挑戦」を開催します。

“まほろんカップ”とは、弓矢での射的・火おこしタイムトライアル・槍投げの3種目に挑戦してもらい、その総合点を競う大会です(先着48名、参加費無料)。上位入賞者には、まほろん特製賞品を進呈します。もう一つの“すり染め”に挑戦”では、古代の染色技術でハンカチを染め、自分だけのハンカチを作ります(先着80名、参加費500円)。ほかにも、勾玉づくり無料抽選会やかき氷作り体験(1回50円)などを予定していますので、どうぞお楽しみに!

体験活動室メニュー

以上のような週末ごとのイベントに加え、体験学習

室では、毎日、次の特別体験メニューを用意しております。

6月23日(火)～7月17日(金)

・七夕飾りをつくってみよう(無料)

・勾玉・管玉づくり(320～450円)

7月18日(火)～8月23日(日)

・勾玉・管玉づくり(320～450円)

8月24日(月)～9月6日(日)

・拓本に挑戦しよう(無料)

・勾玉・管玉づくり(320～450円)

また、7月12日(日)までは、特別展「慶長五年直江兼続と白河口」の開催にあわせ、「愛の兜づくり」も行なっています。いずれも、作ったものをお持ち帰りいただけますので、夏休みの思い出に、あるいはご来館の記念にご利用ください。



昨年の「まほろん夏まつり」の様子

企画展案内

ふくしま里帰り展「発掘されたふくしまの江戸藩邸」

会 期:平成 21 年 7 月 18 日 (土) から 9 月 13 日 (日)

会 場:まほろん特別展示室 (入場無料)

平成 21 年度は今後 3 回の企画展を予定しており、第 1 回目は「発掘されたふくしまの江戸藩邸」を開催します。江戸時代の世界的大都市であった江戸には、現在の皇居周辺や霞ヶ関の官庁街に全国の藩邸がありました。東京の再開発事業の進捗と共に、江戸時代の藩邸についての発掘調査例が増加してきました。

福島県内の各藩の藩邸のうち、会津藩中屋敷 (汐留シオサイト)、二本松藩上屋敷 (衆議院第一会館) が発掘調査されていますので、ここから出土した陶磁器や土製品・石製品などを展示して、両藩士の江戸での暮らしを紹介します。併せて当館所蔵の江戸時代の村々 (三春町堀ノ内遺跡) の発掘調査資料を並列展示して、県民に大都市東京にかけて各藩の東京事務所が

イベント「鉄づくり」

福島県は、古代において東日本で最大級の製鉄遺跡があったところ。まほろんでは、この古代の製鉄炉を復元し、たたら操業を体験するイベントを 2 年ごとに行っています。今年はその鉄づくりの年です。

今年のイベントは、砂鉄選別 (8 月 8・9 日)、羽口づくり (9 月 12 日)、製鉄炉操業 (11 月 7・8 日) の 3 回行います。砂鉄選別では市内の川より採取した粗粒の土砂を傾斜の付いた簡易の樋に入れて、上流でもみ洗いして比重の差により砂鉄と砂に選別します。



比重の重い砂鉄は上流に残存し、軽い砂は下流に流れます。上流に残った砂鉄は、乾燥させ、操業当日に炉に入れます。

まほろんボランティア

まほろんボランティアの活動

平成 21 年度から新しい「まほろんボランティア」が始まりました。これまでの 7 年間の活動を基に、ボランティアは①職員と協力し、知識・技術・経験を生かして館活動を支える支援者、②まほろんと県民・利用者を積極的につなぐ連携者、③まほろんでの活動を通じて学習し、自己啓発に努める学習者としての期待する姿を目標としています。

【活動内容の種類】

①展示や館内外の案内や解説関係

展示案内・解説、館内案内、体験学習に関連する学芸員の補助や館内外の環境整備支援や古代

あったことや江戸時代の暮らしや習俗を理解していただく展示です。

なお、8 月 30 日 (日) には、当館館長藤本強による専門考古学講座 I 「発掘された福島県の江戸藩邸」が開催されます。



会津藩上屋敷の跡地

羽口づくりでは、製鉄炉の操業の際に、ふいごからの風を炉内に送る役目を担う土製の羽口を作ります。心棒に粘土を巻き付けて整形し、心棒を抜いた後に一方をラップ状に広げ、他方はすぼませます。その後、乾燥させてから野焼きして完成です。

製鉄炉の操業では、粘土で作った炉に足踏みふいごを用いて風を送り、炉の中に木炭と砂鉄を交互に入れて鉄を作ります。前回までは、職員が炉づくりから砂鉄・木炭投入まで全て行っていたのですが、今回は準備段階の炉づくりから操業までの一連の作業を共に行う体験者 (=村下) を募集し、鉄づくりをより近くで感じていただく予定です。また、前回と同様にふいごを踏んでくれる人 (=番子) も募集します。なお、砂鉄選別と羽口づくりは申し込み不要ですが、製鉄炉操業の村下と番子は事前申し込みが必要となります。募集は、8 月を予定しています。



の畑の管理など。

②資料の整理関係

収蔵資料の修復補助、収蔵資料の撮影補助など

③事業運営関係

講座・講演会・イベントに関する学芸員の補助・支援など

【活動形態】

活動時間は、1 日に最低 2 時間以上とし、各人の都合にあわせて月 2 回以上活動をしています。

4 月から 6 月まで、新規登録ボランティアを含めて基礎研修が終わり、7 月から土・日を中心に「まほろんボランティア」が活動しています。まほろんにおいてになりましたら、気軽にボランティアに声をかけてください。

文化財研修のご案内

7～9月の研修

7月11日(土)は、考古学基礎講座Ⅲ「衣食住の歴史(衣)」を行います。考古資料、文献資料に照らしながら、会津地方の民俗文化財を中心に紹介します。

7月25日(土)は、体験学習支援研修Ⅰ「カラムシ繊維の取り出し」を行います。体験学習を学校教育等に応用しようとする方を対象に、カラムシの茎から繊維を取り出す方法を学びます。

7月28日(火)～29日(水)は、文化財保護指導者研修会を行います。二本松城跡の発掘調査成果とその歴史的評価、福島県における文化財行政の現状、緊急時における文化財ネットワークについて、研修します。会場は二本松市の福島県男女共生センターです。

シリーズ収蔵品紹介 8

墨書土器の不思議

今回紹介するのは、土器の表面に文字が書かれている「墨書土器」です。日本に文字が伝わったのは、約1800年前の古墳時代の初め頃とされていますが、人々が実際に文字を日常的に使用するようになったのは、奈良時代頃になってからとされています。しかし、奈良時代でも、使用するのは主に役人や僧侶等の特定の階層の人達であって、一般には広まっていなかったとされています。この当時の文字とは、権威権力の象徴であり、神聖なものであったことが窺われます。

土器に書いた文字を分類して見てみると、官職名、人名、地名、吉祥句、方角、数字、器の使用目的名、習字等が指摘されています。当館収蔵の資料の中には、地名かと思われる「万川」「田上」「玉造」や吉祥句とされる「財」「富」「吉」「豊」、数字の「四」「九」、単位の「斤」また、「本」=「奉」など供物を奉じる時に使用したことが窺われる文字も見られます。他に宗教的な施設を表した「寺」「宮寺」や儀礼的な意味合いが強い「子」「午」などが確認されています。このように、文字として判読可能なものが多く出土していますが、中には写真①のように記号的で読解が困難なものや、②のように「伴」の字の外側に「几」を

8月5日(水)～7日(金)は、教職員発掘調査研修を行います。教職員の方を対象に遺跡発掘調査を本格的に体験し、学校教育や生涯学習に役立てる研修です。今回は、須賀川市上人壇廃寺を会場とします。

8月30日(日)は、専門考古学講座Ⅰ「発掘された福島の江戸藩邸」を行います。会津藩中屋敷や二本松藩上屋敷といった江戸藩邸(今で言う福島県東京事務所)の現況を紹介し、前田家本郷邸(東京大学構内)の調査成果に基づいて江戸藩邸の実態と役人たちの暮らしぶりを明らかにします。

9月12日(土)は、専門考古学講座Ⅱ「古代の集落」を行います。国造の支配領域単位で、7世紀の集落再編の様子を分析し、さらに手工業生産や広域間交流の変化とからめて、その歴史的意義を明らかにします。また、関連収蔵資料を展示し、解説する予定です。



①②玉川村辰巳城遺跡 ③会津若松市上吉田遺跡

書いたものなど、現在では使用されていない文字も見受けられます。

この②の文字については、現在、「魔除けと思われる記号を付した文字」として考えられています。古代では、もともと「実名」を忌避する風潮があり、「別名」の使用が一般的でしたが、ある種の祭祀や儀礼の際には、吉祥文字とされる「財」「富」「吉」「得」などが使用される傾向がありました。②の土器に書かれた文字は、そのような意味合いを持ち、直接人名を書いたことを気にして災いから身を守るために魔除けの符号を付けたと考えられています。

③は則天文字という極めて特徴的な文字で「」で表現されています。読みは「てん」であり、中国史上唯一の女帝である則天武后が今から約1300年前に制度化したものです。日本には遣唐使が持ち帰ったとされ、中央の役人から地方役人へそして庶民へと伝えられ吉祥文字の一種として使用されたものです。

このようにして文字が人々の生活の中に浸透していた様子が窺われます。

まほろんからのお知らせ

夏休みは無休です

もうすぐ夏休み。7月18日(金)～8月23日(日)の期間中、まほろんは月曜日も開館します。

さらに、楽しい企画が盛りだくさん。夏まつりもありますよ～。
お楽しみに！



ご利用案内

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合はその翌日、ただしGW・夏休み期間中は開館)、国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)、年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合があります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。